

#ユースサポート

16,17,18... 第4号



2021年 5月16日
特定非営利活動法人
ハイティーンズ サポート ちば
発行責任者 吉永 馨
[http:// hs-chiba.net/](http://hs-chiba.net/)

校内居場所カフェ設置に取り組みます！

NPO法人ハイティーンズ サポートちば 理事長 吉永 馨

2020年6月、私たちはNPO法人ハイティーンズサポートちば（HS ちば）を設立し、高校生を中心とする若者支援（修学・就労・食支援、相談活動、居場所カフェ設置等）の事業を立ち上げました。

手探り状態でのスタートでしたが、若者支援にあたっている方々と意見交流するなかで、目に見える支援が大事、コロナ禍の今だからこそ食支援が重要という方向が示されました。こうして、10月以降県立高校4校（東葛飾、千葉工業、市川工業、生浜）で、生徒へのお米無償配布を実施しました。

お米を受け取った生徒からは、「もらったお米が家で話題になった。」「今度はいつやるの?」という声が寄せられ、活動の手応えが感じられました。生徒のみなさんの信頼を得ることが大切と考えます。今後も食支援を継続し、各種事業につなげていきたいと思っています。

2021年度の活動の大きな柱として、校内居場所カフェの設置があります。校内居場所カフェは、生徒たちの「サードプレイス」として着目されており、全国50校以上に設置されています。校内居場所カフェができれば、真の意味での開かれた学校ができ上がっていくことが予想されます。ハイティーンズサポートちばは、設置を希望する学校のみなさんと連携を取りながら開設を進めていきたいと思っています。

コロナ禍で生活が益々厳しくなっていくなか、生活上の困難を抱える高校生を中心とする10代の若者支援は必須となってきています。今後は行政（福祉・教育担当）と私たちNPOが連携して、生活苦に陥る前に若者の支援策を講じていかなければなりません。HS ちばがその呼び水になっていければと思っています。会員の皆さまのご支援のもと、本年度も冒頭にあげた若者支援の事業を進めていきますのでよろしくをお願いします。



2021年度も「お米配布会」続けます！

- 5月 7日 千葉工業高校
- 5月12日 生浜高校
- 5月13日 市川工業高校

2021年度第1回の「お米配布会」が上記3校で実施されました。今回もフードバンクちばさんからお米（玄米）1.5トンを分けていただき、生徒約650名に2kgずつ配布することができました。

(写真は市川工業高校食堂で12日に行われたお米の袋詰め作業。今回も多くの地域の方々に参加していただきました。)

コロナ禍の若者サポート

□基調講演「コロナ禍、若者の苦悩と向き合う」

講師 朝比奈 ミカ さん

(中核地域生活支援センターがじゅまる代表)

2021年2月13日(土)、HSちば主催のシンポジウムを開催しました。新型コロナウイルス感染症による社会状況は、若者の生活や心にも深刻な影響をもたらしています。こうした中、一人ひとりの事情に沿った相談活動、支援につながる活動がますます重要となっていますが、実際には手探り状態からスタートしているのが実状です。

そこで今回は、相談支援活動についての学習と意見交流の場として企画しました。

講師は朝比奈ミカさん。最新の資料、具体的な事例をもとに、大変分かりやすいお話をしていただきました。会場には、地域で支援活動にあたっている方々も多く参加され、活発な意見交流がありました。朝比奈さんのお話の中から、一部ですが紹介します。



生きづらさを抱える若者への関わり ～地域での相談支援の活動から～

千葉県独自の包括的相談支援事業として2004年度中核地域生活支援センターが設置された。対象者や問題を問わない総合相談が特徴で、「相談」よりも「支援」を重視する。24時間・365日の相談支援体制を取る。権利擁護の活動や、地域の人と協働して解決できる地域づくりの活動にも取り組んでいる。

□子ども・若者の状況はどうなっているか

単身の若者の相談内容は、住まい・仕事・経済的困窮・健康不安の割合が高く、生活の基盤が脅かされて相談に結びつく状況がうかがわれる。それに対し中核センターでは、「傾聴、話し相手」「買い物や安否確認等の直接的な生活支援」「障害や疾病等の情報提供」しながら、「住まい・医療・就労に関する支援」「生活保護の申請支援」等多岐にわたる対応をすすめている。

□678プロジェクトについて

社会的な支援体制が極めて限られている10代後半の子どもたち、若者たちに関わる市川・浦安地域のネットワークづくりを目的に「いちかわ うらやす・若者サポートプロジェクト・678(ろくななはち)」がある。16～18歳は、将来の自立へ向かう大切な時期だが、その一方で、家族・家庭の影響を受けざるを得ない。家庭が大変でもその状況をギリギリまで隠す・気がつかない。このため自分たちから支援には繋がりにくい。

学校は、支援が必要な子どもたちに気がつきやすい所。しかし高校とはつながりにくい。なぜか？支援機関・相談機関があることが知られていない。学区が広範囲で相談先(自治体)がまちまちで分かりづらい。生徒、生徒の家庭の問題にどこまで関わるべきかという葛藤？これまで、各機関がバラバラに「連携」して説明していたのではないか。

□678プロジェクトで見えてきたこと

顔の見える関係をつくるためには、高校に毎年足を運んでネットワークを更新していく必要がある。18歳は法律の切れ目、制度の大きな課題。大人に裏切られてきた経験も多く、支援機関が繋がるのは至難の業。若者同士のつながりやSNSなどのツール活用が必要。長期に関わり成長を見守るための様々な社会資源が必要。地域社会全体でモラトリアムを支えていきたい。※「地域の合法的な家出拠点」とは。

□コロナ禍のなかで

「ステイホーム」のメッセージの残酷さを考える。仕事が無くなった、居場所を失った、将来が見えない……。若者の置かれている状況は厳しい。

□課題はたくさん

・日常生活に関わる制度や社会資源の不足・「助言・指導」ではなく、支援が必要。親を批判せずに、さりげなく見守り関わる大人たちを増やしたい。・ピアサポートの育成、泊まれる・暮らす社会資源の必要性、公共性の高い保証のしくみ。

メディアで紹介されました

1日1食の高校生も… コロナ禍、広がる貧困への不安

2021年3月11日 朝日新聞デジタル



米や野菜を受け取る高校生たち
=2021年1月14日、上田雅文撮影

貧困に悩む若者を支援するNPO法人「ハイティーンズサポートちば」（船橋市）のアンケートで、コロナ禍の影響などで「1日1食」の高校生もいることがわかった。アルバイト時間が減ったり、保護者の収入が減ったりし、不安感が広がっているという。

アンケートは1月、県内の1高校で実施。全日制と定時制の計215人が回答した。うち50人が「1日2食」、5人が「1日1食」と回答した。「今の生活で困っていることは」との設問には、約3割が「新型コロナ」を挙げ、アルバイトの日数や時間が減った生徒もいた。

「親の収入が減り困っている」「親の職場の閉鎖」との具体的記述もあり、「内定は取ったがいつクビになるかわからない」と自身の卒業後を心配する声もあった。

NPOは元高校教諭らがメンバーで、子どもたちの貧困問題に取り組むため、昨春設立。「フードバンクちば」などの協力を得て、食料の無料配布会などを行っている。この高校でも1月、寄付で集めた米2キロやレトルトカレー、ニンジンなどを生徒たちに配った。

NPOの吉永馨理事長によると、コロナ禍でこれまで以上に経済的な悩みを明かす生徒は増えているといい、「少しでも悩みを解消して、生徒たちが目指す将来に近づいてほしい」と話す。（上田雅文）

多くの団体より助成金をいただきました

○コロナに負けるな！コープみらい・市民活動助成

新型コロナウイルス感染の拡大と長期化の中、問題の深刻化・長期化が進んでいます。特に子ども、高齢者、障害のある方など「社会的弱者」を支援している団体の事業・活動への助成団体として、特定非営利活動法人ハイティーンズサポートちばが選定され、10万円の助成をいただきました。ありがとうございました。

○千葉日報子どもの育ち応援基金2021年度助成事業

NPO法人ハイティーンズサポートちばの「高校生、高校中退者など10代後半の若者への食支援、修学・就労支援と個別相談活動」が選定され、80万円の助成をいただきました。今回の助成を励みに、さらに活動の幅を広げ、情報を発信して支援者を増やし、継続して活動していきたいと思っております。ありがとうございました。

○2021年度パルスシステム千葉コミュニティ活動助成基金

2020年度に続き2021年度の助成団体として選定していただきました。交付金30万円につきましては、講演会・相談会の開催費用、食品・野菜等の運搬費用、広報費用等に活用させていただきます。引き続き地域の方々とともに若者支援に取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございました。

○日教組「新型コロナウイルス感染症対策カンパを活用した団体支援金」として10万円いただきました。大切にに使わせていただきます。

（4月22日、千葉県高教組坂本委員長より目録をいただく吉永理事長）



第2回定期総会のお知らせ

- 期日 2021年5月16日(日曜)
13時30分～14時30分
- 会場 千葉市文化センター 5Fセミナー室
- 内容 2020年度事業報告、決算報告
2021年度事業計画、予算等
- 記念講演 15時～16時30分
コロナ禍、貧困の記録～2020年この国の底が抜けた～ 講師 雨宮 処凜さん
- 参加費 500円



困ったことがあったら
すぐご相談ください！
当会のLINE公式アカウント名は「hsちば」です。

会員募集→
詳細はHPにて



公式LINE→
友だち追加



コロナ禍、貧困の記録

～2020年この国の底が抜けた～



講師：雨宮 処凜さん

1975年、北海道生まれ。作家・活動家。
2000年、自伝的エッセイ『生き地獄天国』でデビュー。
いじめやリストカットなど自身も経験した「生きづらさ」についての著作を発表。
イラクや北朝鮮への渡航を重ね、格差・貧困問題、脱原発運動に取り組む。
取材、執筆活動に加え、メディアでも積極的に発言。
著書『生きさせろ！ 難民化する若者たち』はJCJ賞(日本ジャーナリスト会議賞)を受賞。
「反貧困ネットワーク」世話人。「週刊金曜日」編集委員。
「フリーター全労働組合」組合員。「こわれ者の祭典」名誉会長。
「公正な税制を求める市民連絡会」共同代表。

■5/16(日) 15:00～16:30

■千葉市文化センター5Fセミナー室にて

参加費
¥500

申し込み不要
定員70名



■お問い合わせ

NPO ハイティーンズサポートちば
090-3525-2055 (吉永)

公式LINE→

LINE 友だち追加



リレー

Essay

無知の知

～生徒から学ぶ楽しさ～

長永 孝弘 市川工業高校(定時制)

今年で市川工業高校に異動して1年が経ちました。

そして、1学年の担任になりました。

私のクラスは、半分以上の生徒さんが何らかの形で外国に繋がる人たちです。教員生活30年の私も初めての体験です。毎日、ホームルームの連絡には日本語にルビを振り、6か国語に翻訳したプリントを配布しています。それでも伝わらないことが多く、格闘の日々を送っています。また、自分の常識にとらわれることなく生徒さんに関わることが大切な場面に出会います。

教員という仕事は指導することに重きを置き、往々にして上から目線で生徒さんに教え込むことばかりで、生徒さんから学ぶという視点を見失いがちです。

ソクラテスの「無知の知」ではないですが、自分の無知(知らないこと)を認め、そこから真理を導き出す視点、それこそが教育の原点だと思えます。改めて生徒さんから学ぶことの大切さを実感しています。併せて、私自身の生き方を豊かにしてくれるものと思えます。

やはり、生徒さんは宝です。